

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 史学専攻 修士課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

大学院史学専攻では、歴史に関する幅広い知識と高い専門性を身につけ、歴史に関する研究・教育、文化財の保存・活用などに従事したり、社会に存在するさまざまな課題について、歴史的な文脈のなかで考察し、的確な評価を行い、解決に導いたりすることができる人物に学位を授与します。そのために、以下のような学習成果を上げることが期待されます。

- 1.自身の専攻する日本史、東洋史、西洋史のいずれかの分野の専門的な学識。それに加え、その他の歴史学分野および、自身の研究課題に応じた歴史学以外の学問分野を含む幅広い学識。
- 2.先行研究の成果を尊重しつつ、それらを批判的に継承し、自身の研究課題を設定する能力。
- 3.史料を的確に読み解いて、新たな史実を発見したり、解釈を行ったりする能力。
- 4.課題を追究した成果について、口頭または文章、その他の表現手段によって、論理的かつ明解に説明する能力。
- 5.地域や国内、世界の各地に残された歴史文化資源の重要性を理解し、その価値を社会に伝え、関係する人々と協力して保存や活用につなげる能力。
- 6.歴史に関する学識を基礎として、職場、家庭、地域社会において、生涯にわたって知的好奇心を維持し、学び続け、貢献する姿勢。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 史学専攻 修士課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院史学専攻では、歴史的事象を学術的に探究します。史料を用いて歴史的事象を再構成し、そこから明らかになったことをもとに事象を評価、その成果を論理的かつ明解に説明して社会に伝え、よりよい未来を築くことに貢献します。

大学院史学専攻の教育課程は、地域ごとに日本史コース、東洋史コース、西洋史コースに分かれています。各コースでは、古代史から現代史にいたるまでの各時代について学べるようになっていきます。自分の専攻する地域や時代を中心に、他の地域や時代も学び、高い専門性ととも、広い視野から歴史をとらえる力を養えるように設計されています。

授業は、幅広い分野と時代にわたって高度な専門的知識を授けることを目的としたコースワーク科目（研究・特講）と、修士論文の作成に直結する調査研究能力を育成するリサーチワーク科目（論文演習）とに大きく分かれています。

コースワーク科目では、地域ごとに古代史から現代史にいたるまでの各時代について多彩な内容をもった授業を開講しています。これらの授業を通じて、大学院生が自らの問題関心に従い、幅広い知識と高い専門性を獲得し、さらに修士論文の執筆にむけ原史料の読解能力や先行研究を把握・整理する力を身につける機会を提供します。リサーチワーク科目では、それらの力を総合して学術論文を作成するための指導を行います。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 史学専攻 修士課程の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

大学院史学専攻では、歴史に関する幅広い知識と高い専門性を身につけ、歴史に関する研究・教育、文化財の保存・活用などに従事したり、社会に存在するさまざまな課題について、歴史的な文脈のなかで考察し、的確な評価を行い、解決に導いたりすることができる人物を養成することを目指しています。

そのため、以下のような能力や姿勢を有する学生を求めます。

1. 専攻を希望する日本史・東洋史・西洋史のそれぞれの分野において、専門文献や史料を読解できる基本的な能力。専門科目試験で判定します。
2. 専攻を希望する日本史・東洋史・西洋史のそれぞれの分野において、研究上必要とされる外国語の読解能力。外国語試験で判定します。
3. 研究課題を設定し、実現可能性のある計画を立て、研究を遂行する能力。研究計画書等で判定します。
4. 学術研究に関心と意欲を持ち、教員からの指導や他の学生との交流を通じて成長しようとする姿勢。口述試験等で評価します。
5. 1～4で述べたような力を総合し、学術論文を作成する能力。すなわち、先行研究を参照しながら、設定した独自の研究課題について、史料に基づき実証的に論じ、論理的かつ明解に表現する能力。卒業論文（またはそれに代わるもの）で評価します。史学専攻では、学部での卒業論文（またはそれに代わるもの）を、大学院進学後の研究能力を客観的に示す手段として最も重要なものと考えています。